言葉の森の作文

無料体験学習 受付中！

先生からの電話による無料体験学習が２回できます。
電話を受ける曜日と時間を自由に決めてお申込みください。
作文を書いている途中でも、教室に質問ができます。

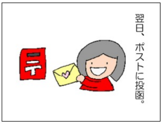
これから大事になるのは
国語力、読解力、記述力、作文力。

これまでの試験は選択式がほとんどでしたが、これからの試験は記述式が主流になります。
国語の問題集を解く勉強では、国語力、読解力はつきません。
作文を赤ペンで添削されるだけでは、記述力、作文力はつきません。

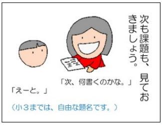
長文を読み感想文を書く練習で、しかも事前に個別の電話指導があることによって、本当の実力がつきます。

小学校低学年から、国語力、読解力、記述力、作文力をつける
言葉の森の独自の作文感想文指導。

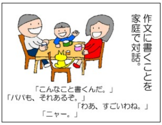
● Online作文教室 言葉の森　電話 0120-22-3987（045-830-1177）
234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台4-3-1（JR根岸線 港南台駅徒歩3分） 21080404-1/0



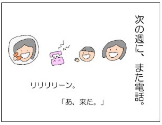
１１


次も課題も、見ておきましょう。
「次、何書くのかな。」
「えーと。」
（小３までは、自由な題名です。）

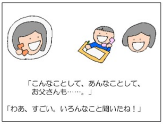
１２


作文に書くことを家庭で対話。
「こんなこと書くんだ。」
「パパも、それあるぞ。」
「わあ、すごいわね。」
「ニャー。」

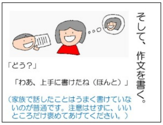
１３


次の週に、また電話。
リリリリーン。
「あ、来た。」

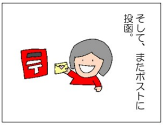
１４


「こんなことして、あんなことして、お父さんも……。」
「わあ、すごい。いろんなこと聞いたね！」

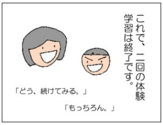
１６


そして、作文を書く。
「どう？」
「わあ、上手に書けたね（ほんと）」
（家族で話したことはうまく書けていないのが普通です。注意はせずに、いいところだけ褒めてあげてください。）

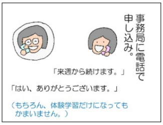
１７


そして、またポストに投函。

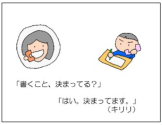
１８


これで、二回の体験学習は終了です。
「どう、続けてみる。」
「もっちろん。」

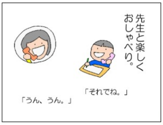
１９


事務局に電話で申し込み。
「来週から続けます。」
「はい、ありがとうございます。」
（もちろん、体験学習だけになってもかまいません。）

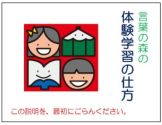
２０


「書くこと、決まってる?」
「はい。決まってます。」（キリリ）

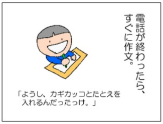
１５


先生と楽しくおしゃべり。
「それでね。」
「うん、うん。」

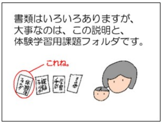
6


言葉の森の
体験学習の仕方
この説明を、最初にごらんください。

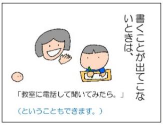
1


電話が終わったら、すぐに作文。
「ようし、カギカッコとたとえを入れるんだったっけ。」

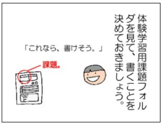
7


書類はいろいろありますが、
大事なのは、この説明と、
体験学習用課題フォルダです。
これね。

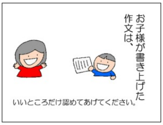
2


書くことが出てこないときは、
「教室に電話して聞いてみたら。」
（ということもできます。）

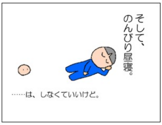
8


体験学習用課題フォルダを見て、書くことを決めておきましょう。
「これなら、書けそう。」
課題。

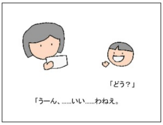
3


お子様が書き上げた作文は、
いいところだけ認めてあげてください。

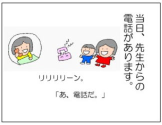
9


そして、のんびり昼寝。
……は、しなくていいけど。

4



１０


当日、先生からの電話があります。
リリリリーン。
「あ、電話だ。」

5

作文の勉強によって思考力をつければ、国語もほかの勉強もどんどん進む。

小１の楽しい作文から高３の小論文大学入試まで、一貫した指導で定評のある言葉の森

1. 国語力は思考力。作文で考える力を伸ばす

　英語や数学は、たとえ苦手であっても、必要性を感じてから本気でやれば、数ヶ月で得意になるというレベルまでの勉強ができます。しかし、国語の差は、いったんつくと埋めがたい差になります。

　国語力は、現在の日本では、小説の読み方のような教科と考えられている面がありますが、実は思考力そのものです。

　国語力の本質は考える力ですから、あらゆる勉強の基礎になっています。読解力は、多様なものできるだけ早く理解し読み取る力です。作文力は、様々に異なるものの関連性を見つけそれらを創造的に結びつける力です。

　国語の力をつけるためには、書く勉強としての作文の勉強が欠かせません。子供たちの国語力を本当につけるためには、選択式の問題を解くだけでなく、もっと文章を書く時間を増やしていく必要があるのです。

2. 時間のかかる国語力をまず育てる

　国語力は、あらゆる学力の基礎であると言われています。数学や英語の勉強は、たとえ遅れていてもて比較的短期間で取り戻すことができます。しかし、**国語力を取り戻すには、きわめて長い期間がかかります。**

　国語力の中心は、文章を読む力と文章を書く力です。その中でも特に文章を書く力に、日本語力の本当の実力が表れます。

　作文力を高めるためには、作文の勉強だけをしていても限界があります。書く力を高めるためには、書く力の土台となる読む力をつける必要があるからです。言葉の森の指導の特徴は、長文を読んで感想文を書くという形で、読む力と書く力を組み合わせているところにあります。

　言葉の森の作文の勉強は、単なるテストのための国語の勉強を超えた本当の国語力を育てるための勉強なのです。

3. 学問の母としての国語の力を伸ばす、言葉の森の勉強

　国語力の大切さが見直されています。ある大学の数学の教授は、「数学科には、国語力のある生徒が来てほしい」と言っています。

　国語的な仕事に就いている人だけが、国語力があるのではありません。国語力のある人は、様々な専門の仕事の分野でその国語力を生かして活躍しているのです。

　では、真の国語力とは何でしょうか。それは、思考力です。言い方を変えれば物事を構造的に見る力と言ってもいいでしょう。

　哲学は、かつてギリシャで「知を愛する学問」と言われていました。ヨーロッパでは今も哲学は、学問の母と言われています。同じように、日本においては国語が、あらゆる学問の母になっています。

　言語による認識の構造化が国語力だとすると、国語力を高める方法は、次のようなことになります。第一は、難しい文章を繰り返し読むことです。第二は、自分の好きな本をたくさん読むことです。第三は、関心のあるテーマについて家族や友人と対話をすることです。第四は、すぐれた内容の文章を音読したり暗唱したりすることです。第五は、構成を意識した作文を書くことです。

　言葉の森では、こういう勉強をしているのです。

4. 小学校低学年から始めて受験に対応した国語力がつく

　言葉の森では、小学校１、２年生のころから作文の勉強を始める子が多くいます。

　受講する生徒の多くは、最初から中学受験を考えているわけではありません。しかし、**勉強をする中で書く力読む力がついてくるので、小学校高学年になるころには、結果的に、中学受験にも対応した国語力がついています。**

　最近、受験で作文の試験を出す学校が増えてきました。言葉の森では、作文入試に関しては、それぞれの学校の過去問に対応した問題を個別に指導しています。海外からの帰国子女で、入試に作文を使うというケースも年々増えています。これらの入試にも、志望校に合わせた形で対応しています。

　言葉の森で作文の勉強をすることによって、子供たちは、文章を書くことが好きになり、書くことに自信がついてきます。これが言葉の森の勉強の大きな成果で、入試の結果はそのあとから自然についてくるのです。

5. 言葉の森だけの独自の教材

　言葉の森の教材は、すべてオリジナルです。**３０年の指導の蓄積が、いろいろな形で教材の中に盛り込まれています。**

　構成作文と項目指導では、作文の構成の仕方と表現の項目を事前に説明します。この方法で、難しい感想文も楽に書き出すことができます。

　言葉の森の暗唱では、普通の音読や暗唱ではない、やり方を工夫した約１０分間の暗唱をします。この方法で、だれでも楽に長い文章の暗唱ができるようになります。

　構成図では、作文を書く前に構想を考える習慣をつけます。この方法によって、作文を書くために考える時間の能率が上がりります。

　このほかに、付箋読書、問題集読書、電話指導、振替授業など独自の教材と指導法が充実しているのが言葉の森の特徴です。

6. 成績を上げる勉強より、実力をつける勉強を中心に

　小中学校時代の勉強は、成績を上げることではなく実力をつけることです。

　わかりやすい例で言うと、小学生の子に、国語の勉強としてドリルのようなものをさせる人も多いと思います。問題を解く勉強を毎日する習慣がついたとしても、これでは実力をつけていることになりません。

　国語の力をつけるためには、問題を解くよりも読書と対話に時間を割いた方がいいのです。

　国語のドリルをやっている子は、学校や塾の国語のテストも要領がわかるので、最初のうち、少しは点数がいいかもしれません。しかし、**学年が上がるにつれて成績が上がっていくのは、国語の問題集などせずに、読書を楽しみ、家族と対話をしていた子の方なのです。**

　家庭での生活習慣が、子供の勉強力の根っこになっています。根がしっかり張っている子は、その根の力の範囲まですぐに花を咲かせることができるのです。

7. 上手な作文に共通するのは、光る表現があること

　誤字がなく、字数も長く書けるという作文の基礎力ができた人は、どこに注意をして作文の勉強をしていったらいいのでしょうか。

　人間の評価には、不思議な特徴があります。それは、全体的によく書けている文章よりも、どこかに光る場所がある文章の方に高い評価を与えがちだということです。反対に、どこかに誤表記があると、それだけで全体の評価は実力よりもずっと下がります。つまり、**全体に９０点の文章を書くよりも、全体が８０点で一ヶ所１００点のところがある文章の方が評価は高くなることが多いのです。**

　特に印象に残る１ヶ所は、結びの部分です。上手な作文は、途中が上手であるよりも、結びに光る表現があるという特徴を持っています。

8. 言葉の森の作文の勉強によって、低学年から親子の対話ができそれが実力を更に育てる

　作文の勉強は小学校の低学年からスタートする必要があります。

　小学校低学年のころから始めると、まず暗唱などの自習の習慣がつきます。そして、低学年のうちから始めた習い事は、長続きすることが多いのです。もちろん、勉強を始めるのに遅すぎるということはありません。しかし、高学年になると勉強の習慣をつけるために何倍もの働きかけが必要になります。

　小学校低学年のころは、勉強の中身よりも、勉強をすること自体に意味があります。なぜかというと、その時期にスタートすると、それがその後の生活の習慣になるからです。

　言葉の森で勉強するようになると、まず子供に毎日の勉強の習慣がつきます。一方、**親は、子供との対話を大事にするようになります。この親子の生活習慣の変化が、実は学力の土台になっているのです。**

　小学生のころの最も大事な勉強は、一言で言えば、愛情と日本語です。それ以外の勉強や習い事は子供の可能性を広げるという点でいいことですが、最優先するのは日本語をしっかり使えるようになることと、愛情のある子供に育てることです。

9. 毎週の電話指導で実力のつく作文

　言葉の森の通信指導の特徴は、担当の先生が毎週電話でその週の作文の書き方を説明することです。

　一般に通信教育は、教材だけが送られてくる形がほとんどです。ところが教材だけが届く形だと、教材の内容はどうしても取り組みやすいドリル形式になります。

　次々と問題を解く形の勉強は、いかにも勉強をしているような感じ受けます。しかし実は、どんどんできるような問題は、もともとやらなくてもできた問題です。

　なかなかできない問題がやっとできるようになるときに本当に力がつくのですから、やりにくい勉強に取り組むことが実はいちばん大切なのです。**やりにくい勉強をするためには、担当の先生による具体的な電話指導などのアドバイスが必要になります。**

　作文の勉強は、１年も２年も楽しく教え続けることはなかなかできません。小学校１年生から高校３年生まで、長期間継続して指導できるというのが、言葉の森の作文指導の特徴です。

作文教室　比較のための１０の基準

電話指導、オリジナルな教材、ユニークな暗唱指導、長い伝統。

1. 長年続いているか。日本で最も早くから始めた作文教室

　文章教えることは簡単だが、何年も継続して教えることは難しいというのが、作文教室の特徴です。そのため、長年続いている教室はきわめて少ないのです。

　言葉の森は、最初に生徒募集を始めたのが１９７５年、会社設立が１９８５年と、作文教室としては最も早くからスタートしています。長年続いているということが、信頼性の証です。

2. 国語の問題を解くだけでは国語力はつかない。作文は専科で

　作文を教えている教室の中には、国語の問題をやることを勉強の中心にし、作文はときどき書かせるという形のところも多いようです。

　しかし、そのような教え方では作文の力も国語の力もつきません。作文は、系統的なカリキュラムで教える中で実力がついていくからです。

3. 中学受験、高校入試のどんな課題でも即座に対応できる

　言葉の森は、通常の作文指導のほかに、受験コースを設けています。これは、作文入試に取り組む生徒が、志望校の過去問に対応した作文を書く練習をするコースです。

　言葉の森が受験コース用にオリジナルに準備している課題は約１０００題ですから、どのような問題にも即座に対応できます。

4. 高校生の大学入試小論文も個別に指導。

　言葉の森では、小学生から始めた子がいつの間にか高校生になり、大学入試の小論文を受けるようになることがあります。そのときも、指導のスタイルは個別指導です。

　志望校の過去問に合わせた課題で、生徒の実力に合わせて個別に指導できるのは、小学生から高校生までの一貫したカリキュラムがあるからです。

5. 担任の先生が決まっているので安心できる

　言葉の森は、担当する先生が決まっているので、指導に継続性があります。電話指導は、子供の実態に合わせて行われます。

　教えている先生と直接話ができるというのが、言葉の森の親身な指導の土台になっています。

6. 毎週電話の説明があるので、通信教育でも楽に続けられる

　作文の勉強は、開始するときの負担が大きいのが特徴です。子供がすぐに作文を書いて、あとは先生の評価を見るだけということであれば苦労はしませんが、ほとんどの場合、子供に作文を書かせることが大変なのです。

　言葉の森の生徒の作文提出率がきわめて高いのは、毎週の電話による指導があるからです。電話を聞いたあとすぐに作文を書けるので、家庭でも楽に作文の勉強が続けられるのです。

7. 読む力をつけるために電話指導で暗唱のチェックができる

　赤ペンによる添削は、作文の指導法の一つですが、添削よりも大事なことは作文力の土台となる読む力をつけることです。

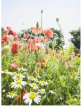
　言葉の森の暗唱の自習は、毎週先生が電話で自習の進み具合をチェックできるので、ほとんどの子が長い文章でも暗唱できるようになります。

8. 無料体験学習でどんな勉強か確かめることができる

言葉の森は、電話指導による２回の無料体験学習があります。体験学習を受けたあと、まだ時期が早いと思えば、そのまま終了し、またしばらくしてから無料体験学習を受けることもできます。

無料体験学習の教材は、実際に受講するときの教材と同じです。指導する先生も曜日も時間も同じです。何度も無料体験学習が受けられるというのは、指導の内容に自信があるからです。

9. 休んだ場合の振替の授業を、予約なしでいつでも受けられる



毎週の決まった授業だと、受講できない日も出てきます。かといって、授業の曜日や時刻が決まっていず、いつでも自由に提出していいということであれば、逆に提出率が低くなります。

言葉の森の授業の特徴は、休んだ場合も別の日にふりかえて授業を受けられることです。授業に柔軟性があるので、ほとんどの生徒が無理なく勉強を続けられるのです。

10. 出来合いの教材ではなく、毎年独自の教材を開発

作文の勉強をする人が増えてきたために、教材作成業者が提供する教材も豊富になってきました。しかし、既製の教材の弱点は、生徒の個別の要求に応えられないことです。

言葉の森の作文教材は、すべてオリジナルで、毎年新しい教材を追加しています。このため、生徒のどのような要求にも対応する指導ができるのです。

父母の声

毎週の電話指導による先生とのつながりが意欲に結びつく。

1. 父母の声（小１、２年）作文は楽しく書く

●作文のおもしろさがわかってきた（小１父母）

６月から始めて、毎週何を書こうかと考える習慣がつき始め、作文のおもしろさがわかり出したようです。頭の中からポンポン湧き出るときは筆も進み、楽しそうに書いていますが、文章は正直で、全く乗っていないときは、おもしろみもない文章に本人も首をかしげております。

●基礎学力習得の大切さ（小１父母）

日経新聞の記事に兵庫県山口小の学習方式や京都の府立高校で教科の授業時間を減らして「読書と読み聞かせ」の時間に充当し、効果を上げている例を読みました。言葉の森新聞で先生がおっしゃっているとおり、読み書き計算の反復により、基礎学力の徹底した習得がすべての学習に好影響を及ぼすと学校現場でも見直されてきていることを知りました。

●先生の励ましに感謝（小１父母）

まだ字を読むのも書くのもたどたどしい小１の息子ですが、先生の温かい励ましで作文に取り組み、毎日音読しています。ありがとうございます。

2. 父母の声（小３、４年）目標があると上手に書ける

●５回の指導で驚くほどの進歩（小３父母）

体験を入れて５回の指導を受けただけで、親が言うのも変ですが、驚く進歩です。大きく変化したのは、書こうという気力です。「作家気取り」で「ここはこうした方がいいと思わない？」……と鉛筆片手に考え考え書き上げています。最近学校から持ち帰ってきた作文は、「会話文を入れる」「たとえ」「思ったこと」「擬音」全てをクリアしていて、大きな花丸でした。以前は、担任の先生から話をさせると素晴らしいのに、書かせると今一つ、とてももったいないとの評だったのですが、今回は好評でした。

●いろいろなジャンルの作品に（小３父母）

音読の伝記（アインシュタインやノーベル）、楽しく取り組んでおります。女の子のためか、ナイチンゲールには手がのびても、アインシュタインや野口秀世などは表紙の顔の絵だけで引いてしまっていましたので、今回、教材に取り上げていただき、ありがたく思います。これからもいろいろなジャンルの作品と出会えると思うと楽しみです。

●長く続けさせたい（小４父母）

いつもお世話になっております。言葉の森新聞を楽しみにしております。子供の方は、書くことが楽しくなってきているようです。（上手、下手は別ですが。）この調子で、できれば長く続けさせたいと思いますので、ご指導よろしくお願いいたします。

3. 父母の声（小５、６年）対話によって考える力が育つ

●先生との話で書く意欲が生まれる（小５父母）

こんなにすばらしいシステムがあるのをもっと早く知っていれば……。今、本当にそう思っています。先生と直接お話することにより、本人にも書く意欲が生まれ、つたない文章ですが、とにかく言われたことはやってみようという気持ちでいます。音読も先生からお話しいただいた効果がすぐ表れ、当初あんなにおっくうでしたのに今はなんとか日々の学習の中に取り入れられそうです。まだ始めたばかりでなかなかまとまった文章を書くに至りませんが、がんばって続けます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

●子供と話し合う良い機会（小５父母）

いつも子供ともども言葉の森を楽しんでします。感想文のときは、普段は会話に上がらない内容について子供と話し合うことが出来て大変良い機会だと考えています。時には書くことが嫌になることもあるようですが、子供には文章を書くことは一生関係があることと言って、励ましながら、時には一緒に考えながら進めております。これからもよろしくお願いします。また、親として新聞のほうも大変興味深く毎回読んでいます。これからもたくさんの意見や感想を掲載してください。

4. 父母の声（中学生）忙しくても続けることに意義

●末長くお世話になりたい（中１父母）

山のたよりや先生のご指導等、親としましてはとても気に入っていて、末永くお世話になりたいといつも思っております。娘は反抗期の最中で、わずらわしい事をやめてしまいたいと親に反抗してきます。反抗期の件も、山のたよりに書かれていたので、とても興味深く読ませていただきました。「言葉の森」も上手く長続きするようにもっていかなければと思っています。遅れがちになったり、とんだりすると思いますが、よろしくお願い致します。

●適切な指導に感動（中１父母）

とても上手にほめてくださり、また、適切なご指導に感動しています。

●目に見えない努力が人間を成長させる（中３父母）

小学生の頃からずっと言葉の森を続けています。とにかく読書を楽しめる、自分の思っていることを書ける子になってほしいと願い続けています。目に見えない努力とか学力というものが人間を成長させていくものだと思っています。

小学校低学年から言葉の森の勉強を始めて、継続することで、合格力がつく

志望校に合格した生徒の多くが、小学校低学年から言葉の森の勉強を始めています。

また、文章を書く力は、大学を卒業したあとも社会生活の中で役立っています。

言葉の森の生徒のこれまでの合格実績

中学	中学	中学	高校	大学
茨城県日立一高附属中	兵庫県立芦屋国際中	白百合学園中	愛媛県立松山東高校	青山学院大学
大阪教育大附属池田中	広島大附属福山中	逗子開成中	愛媛県立大洲高校	学習院大学
大阪市立咲くやこの花中	福岡県立輝翔館中	聖光学院中	お茶の水女子大学附属高校	京都大学医学部
岡山県立倉敷天城中	宮城県立古川黎明中	聖心女子学院初等科	神奈川県立鎌倉高校	慶應義塾大学環境情報学部
岡山県立大安寺中	宮崎県立宮崎西高附属中	聖徳学園中	神奈川県立湘南高校	慶応義塾大学経済学部
香川県立高松北中	横浜市立南高附属中	東大寺学園中	神奈川県立多摩高校	慶應義塾大学総合政策学部
川崎市立川崎高附属中	浅野中	西武学園文理中	神奈川県立横浜翠嵐高校	慶應義塾大学文学部
京都市立春日丘中	麻布中	清風中	京都市立紫野高校	慶應義塾大学法学部
京都府立福知山高附属中	栄光学園中	聖ヨゼフ学園中	京都府立東稜高校	慶應義塾大学理工学部
京都府立洛北高附属中	延暦寺学園比叡山高等学校比叡山中	洗足学園中	慶應義塾高校	恵泉女学園大学
群馬県立中央中	桜蔭中	千里国際学園中	慶應義塾女子高校	上智大学外国語学部
さいたま市立浦和中	大妻中	捜真女学校中	国際基督教大学高校	上智大学文学部
静岡大学教育学部附属静岡中	学習院中	田園調布中	仙台育英高校	玉川大学教育学部
信州大附属中	開智中	東京純心女子中	仙台第二高校	中央大学
仙台市立仙台青陵中	鎌倉女学院中	桐朋女子中	千葉東高校	津田塾大学英文学科
千葉県立千葉中	鎌倉女子大学中等部	長崎日本大学中	東京都立国立高校	東京医科歯科大学
千葉大附属中	関東学院中	灘中	東京都立国分寺高校	東京藝術大学音楽学部
筑波大学附属中	京華女子中	奈良女子大学附属中	東京都立白鴎高校	東京女子大学
筑波大附属駒場中	京都産業大学附属中	新潟明訓中	東京都立東大和南高	東京大学文科１類
東京学芸大附属国際中	公文国際学園中	日大三中	豊島岡女子学園高校	東京大学文科２類
東京大附属中	慶應義塾湘南藤沢中等部	本郷中	栃木県立宇都宮女子高校	東京大学理科１類
東京都立桜修館中	恵泉女学園中	松本秀峰中	名古屋高校	東京大学理科３類
東京都立小石川中	甲陽学院中	山梨学院大学付属中	名古屋大学教育学部附属高校	東京薬科大学
東京都立三鷹中	金光学園中	横浜女学院中	福島県立小高校商業高校	東北大学理学部
東京都立白鴎高附属中	栄東中	横浜雙葉中	桃山高校	一橋大学商学部
東京都立富士中	渋谷教育学園渋谷中	立教女学院中	山手学院高校	明治大学
東京都立南多摩中	秀明中	立正大学付属立正中	神奈川県立柏陽高校	横浜市立大学医学部
東京都立武蔵高附属中	頌栄女子学院中		早稲田実業高校	立教大学法学部
長崎県立諫早高附属中	湘南学園中		神奈川県立横浜国際高校	早稲田大学社会学部
長野県立松本秀峰中	湘南白百合学園中		東京都立西高校	早稲田大学政治経済学部
新潟県立燕中	城北中		開成高校	早稲田大学先進理工学部
新潟大学教育学部附属新潟中	昭和学院秀英中		渋谷教育学園幕張高	早稲田大学文学部

上記の学校名は、受験直前まで言葉の森で勉強していた生徒の進学先です。

卒業生からのメッセージ

東京大学文科二類　S.Kさん

２００１年に入会し、９年間お世話になりました。

国語をはじめとして、私の勉強の基礎は言葉の森にあったと感じています。国語は一番の得意教科で、模試でも全国順位一桁台をとっていました。 毎週文章を書き添削をしていただいたこと、毎日長文を音読していたことで、国語力がつき、小論文や他の科目の論述も全く困ることがありませんでした。言葉の森でついた力はこの先もずっと役立つと思います。

小さい頃からどのように勉強していたのかと最近よく聞かれますが、私はいつも真っ先に言葉の森と珠算だと答えています。

私は、毎週楽しく作文を書き国語力がついたということはもちろん、電話での受け答えに慣れたことなど勉強以外の点でも言葉の森に感謝しています。

春から新しく大学生活が始まりますが、言葉の森で学んだことを生かして、また新しい様々なことを学んでいけたらなあと思います。 本当にありがとうございました。

慶応義塾大学文学部　M.Kさん

私が言葉の森で作文の勉強を始めたのは、やっと電話で知らない人となんとか話せるようになった小学１年生のころでした。先生の質問に答えるかたちで、書くことを決め、電話の後に、今度は母が同じような質問をするので、その答えを作文用紙に書いていったというような記憶があります。

できあがった、確か１００字程度の作文は、作文と言えるようなものでもありませんでしたが、返却された作文を見ると、先生が、作文用紙いっぱいに花丸をつけてくれていて、毎週、気分よく作文を書くことができました。

（中略）

中学生からの課題は、より具体的に受験小論文に役立ちました。中学３年間で勉強した書き方で、ほぼどんなテーマにも対応できる自信がつきました。

第一志望の大学の小論文課題は、制限字数が短かったのですが、基本的には、言葉の森で教わった「構成」「題材」「表現」「主題」を意識することで、対応できました。そのおかげで、他の教科の勉強に多くの時間を割くことができ、また、英語の長文を読む際にも、言葉の森の勉強で身につけた日本語読解力に助けられたと思うので、やはり、作文の勉強は、多くのアドバンテージを与えてくれたと思います。

早稲田大学政経学部　Y.Aさん

私は、言葉の森で１１年間勉強を続けてきました。私が言葉の森を始めたのは、小学１年生のときです。母に連れられて来た教室で、初めて書いた作文を先生に見せたとき、その日見た夢の話を書いた支離滅裂な文章にも関わらず、「面白いね」と褒めてくださいました。これが、私が１１年間作文を書き続ける原動力になりました。

（中略）

言葉の森で学んだ勉強は、入試だけに役立ったわけではありません。学校での読書感想文の課題

や、授業で書かされる小論文、また国語の試験においても、自分の頭で考え、文章を書けるということは、何よりも自分の強みになりました。
（※この生徒は読書感想文コンクールなどにもよく入選していました。言葉の森）

文章力は、英単語を覚えるように暗記でどうにかなるわけではありませんし、小手先のテクニックですぐ身につくものでもありません。私は、週に一度、自分の頭で考え文章を書くということの積み重ねによって、文章力を鍛え、自分自身を成長させることができたと思います。

言葉の森のいちばんの良さは、楽しく勉強できるところです。言葉の森で書いた作文はどんなアルバムよりも、私自身の成長の記録となり、言葉の森で身につけた力は、これからの私の人生においても、大きな支えになっていくと思います。

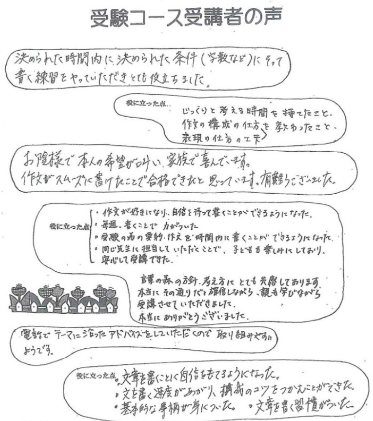
一橋大学商学部　M．Tさん

私は、小学４年生の時に言葉の森の勉強を始めました。小学３年生の時の文集では、何を書いていいのか分からない状態で、「お世話になったのは、×年×組の○○さん、○○さん…」と列記して行数を埋めるという状態でした。
そんな私は、言葉の森の勉強をすることで、文章を「組み立てる」ことができるようになったと思います。実際、４年生の最後に書いた文集は、自分の体験を生かした面白い文章だと褒められるようになりました。
（中略）
言葉の森の作文には「設計図」がありますよね。たとえば、「書き出しの工夫」とともに一つの考えを書いてから、その理由を２つあげて、最後に「光る表現」を加えてまとめます。
作文を書くのが得意になってきたら、だんだんこの「設計図」を、自分なりに「崩してゆく」ことをしたいと思うようになるでしょう。私の場合、最初は学校の作文などでも、言葉の森で習ったような型で書いていましたが、作文が楽しくなると、それを自分なりに変え、いくつかの学期でのポイントを組み合わせるようになりました。小学校高学年や中学生になったら、そうやって「自分らしい作文」を作れるようにもなっていってほしいと思います。

早稲田大学政経学部　N.Yさん

毎週作文を書くことで、文章を書くことが話すことと同じくらい自然なことになった。大学受験でも、学校のテストでも、文章を書けといわれてとまどうということがなくなった。また、作文の説明や評価を先生から聞くことは、学校の先生でも身内でもない大人の意見を聞くことであり、自分の視野を広げ、精神的に成長させたと思う。

国語力・文章力をつけることは、自分の好奇心を育て全ての学習の基盤を育てることになる。文字を読むことが苦痛だと、それだけで自分に対するチャンスが少なくなると思う。例えば、最近は新聞を読む学生が少ない。しかし、話題が多種多様なものを読むことで、自分が普段触れることのないテーマに出会い、そこで意外な興味を持つ可能性もある。



受験コース受講者の声

決められた時間内に決められた条件（字数など）にそって
書く練習をやっていただきとても役立ちました。

役に立った点..
じっくりと考える時間を持てたこと。
作文の構成の仕方を教わったこと。
表現の仕方の工夫

お陰様で本人の希望が叶い、家族で喜んでいます。
作文がスムーズに書けたことで合格できたと思っています。有難うございました。

役に立った点
- 作文が好きになり、自信を持って書くことができるようになった。
- 毎週、書くことで力がついた
- 受験の為の要約・作文を時間内に書くことができるようになった。
- 同じ先生に担当していただくことで、子どもも楽しみにしており、安心して受講できた。

言葉の森の方針、考え方にとても共感しております。
本当にその通りだと確信しながら、親も学びながら
受講させていただきました。
本当にありがとうございました。

電話でテーマに沿ったアドバイスをしていただくので取り組みやすい
ようです。

役に立った点
- 文章を書くことに自信をもてるようになった。
- 文を書く速度があがり、構成のコツをつかむことができた。
- 基本的な事柄が身についた。
- 文章を書く習慣がついた。

役に立った点
言葉の森の作文で書いたときに使った体験談を、本番でも使うことができた点。

同じ先生にとても丁寧にやさしく指導していただき
子供のやる気が失われなかったです。

役に立った点
- いろいろなパターンの問題をやったこと.
- 作文をかく時のポイント（相手の興味を引くような書き方）を知ったこと。
- 作文を書くスピードがついたこと

受験コースの入る前の、自由作文で、楽しく文を
書くことができ、試験の記述に役立ったと思います.

作文に対して苦手意識がありましたが、毎回良いところを見つけて
ほめていただくことで、書くことに抵抗がなくなっていきました。また、保護者に対しても
「注意をしないで、ほめることだけをして下さい」ということを指導していただき、とても良かったです。
塾での採点では、C判定だったりしていましたし、けっこう厳しい指摘が多く、言葉の森との指導の
ギャップを感じました。点数が低く返却された作文も、ところどころよく書けていて
こういう内容で書けるようになってきたことに対して、親としては、うれしく思っていました。
受検本番の作文をすごく読んでみたいのですが、返却はされないようです。
桜と家族の思い出を書きつつ、桜の幹のような、しっかりとした人間に
なりたいという内容で書いた
そうです。

受験間際の申し込みでしたが、
こちらの疑問に直ぐ対応してくださり、
担当の先生も受験校に慣れていらっ
しゃる方から教えて頂き感謝して
おります。先生方の励ましのお言葉で
自信を持って受験することが出来た
ようです。

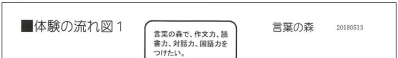
毎週書きためた作文
を音読するという対策
はとても良かったです。
入試の作文でも面接で
とても役に立った様です。

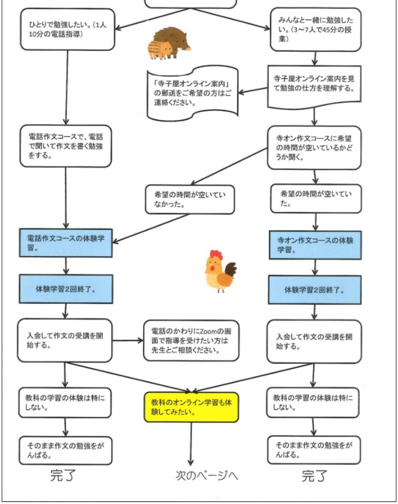
初めは文章を書くのを大変でしたが、毎週作文を
書くことによって書くのが楽しくなりました。少し面倒
だと思ったこともありました。先生と約束している
のでがんばれました。

自分の思う事を、どんな言葉でどのように書けば良いのかが
よくわかる様になったと思います.
相手に気持ちを伝える方法が少し上手になった感じが
しています.
少しの間お休みしますが、本人も自分の作文が変化していく
ことが楽しかった様で、高校受験に向け再開したいと思っています.
中学校生活に慣れましたら

■言葉の森の体験学習の流れ図

言葉の森は、2018年から、これまでの電話通信作文コースのほかに、ウェブ会議システムを使った少人数の寺オン作文コース、同じく少人数の発表学習コースを開設しました。体験学習を希望される方は、下記の流れ図を参考にしてください。





ひとりで勉強したい。（1人10分の電話指導）

みんなと一緒に勉強したい。（3〜7人で45分の授業）

寺子屋オンライン案内を見て勉強の仕方を理解する。

「寺子屋オンライン案内」の郵送をご希望の方はご連絡ください。

電話作文コースで、電話で聞いて作文を書く勉強をする。

寺オン作文コースに希望の時間が空いているかどうか聞く。

希望の時間が空いていなかった。

希望の時間が空いていた。

電話作文コースの体験学習。

寺オン作文コースの体験学習。

体験学習2回終了。

体験学習2回終了。

入会して作文の受講を開始する。

電話のかわりにZoomの画面で指導を受けたい方は先生とご相談ください。

入会して作文の受講を開始する。

教科の学習の体験は特にしない。

教科のオンライン学習も体験してみたい。

教科の学習の体験は特にしない。

そのまま作文の勉強をがんばる。

そのまま作文の勉強をがんばる。

完了

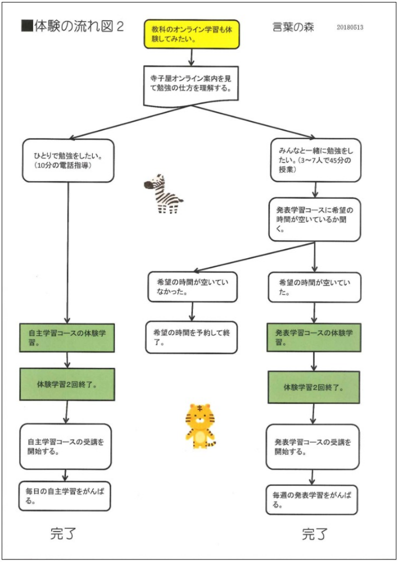
次のページへ

完了

■体験の流れ図２

言葉の森

20180513



教科のオンライン学習も体験してみたい。

寺子屋オンライン案内を見て勉強の仕方を理解する。

ひとりで勉強をしたい。（10分の電話指導）

みんなと一緒に勉強をしたい。（3〜7人で45分の授業）

発表学習コースに希望の時間が空いているか聞く。

希望の時間が空いていなかった。

希望の時間が空いていた。

自主学習コースの体験学習。

希望の時間を予約して終了。

発表学習コースの体験学習。

体験学習2回終了。

体験学習2回終了。

自主学習コースの受講を開始する。

発表学習コースの受講を開始する。

毎日の自主学習をがんばる。

毎週の発表学習をがんばる。

完了

完了